

通常の学級の充実について意見整理  
(令和 5 年度 第 8 回枚方市支援教育充実審議会にて)

ポイント①通常の学級の在り方について

- (1)障害のある児童・生徒がいることを前提とされているか。
- (2)支援学級を利用している子どもたちが通常の学級にいることは特別ではないこと。
- (3)すべての子どもたちにとって、クールダウンの時間、場所、機会は確保できているか。
- (4)子どもたちがヘルプを出しやすい環境となっているか。
- (5)子どもの困り感をどのように把握しているか。
- (6)通常の学級の充実は、すべての子どもたちにとって良いということの共通理解が図れているか。

ポイント②教師の支援体制について

- (1)通常の学級担任が相談できる体制になっているか。
- (2)教師が一人で悩まずに、みんなで考える組織となっているか。
- (3)教師自身が自ら考えて改善できるような機会も必要。チーム体制が取れているか。
- (4)支援教育コーディネーターが求められている業務に専念できているか。
- (5)教員に対して支援教育における知識や方法について教育委員会がバックアップできているか。
- (6)教師が失敗を恐れないようなチーム体制が構築できているか。フォローし合う環境があるか。

ポイント③授業の在り方について

- (1)教師が自分の授業内容について常に話し合う会議体があるか。
- (2)ICT を有効に活用できているか。
- (3)教師が教え込むのではなく、コミュニケーションをとる機会を確保できているか。
- (4)子どもたちがグループで学び合う機会を確保しているか。
- (5)コミュニケーションは大切だが、コミュニケーションが苦手な子どもに対する配慮はできているか。

ポイント④子どもの支援体制について

- (1)個別の教育支援計画、教育指導計画を適切に活用しているか。形骸化していないか。
- (2)保護者や本人の意見が反映されたものとなっているか。
- (3)学校全体で支援が必要な子どもたちについて共通理解を図れているか。
- (4)子どもたちは、何を助けてもらえるのか理解できているか。
- (5)支援をしすぎると子どもの交流を妨げることは理解されているか。
- (6)不登校の子どもたちと支援が必要な子どもたちを適切にアセスメントできているか。

考えられる支援策について

- (1)支援教育コーディネーターの専任化が望ましい。
- (2)支援員は、子ども、教師、学校をサポートする手段として良い制度なので全校設置が望ましい。
- (3)支援員の働き方について認知が広がるように、また働きやすさをアピールすることが望ましい。
- (4)支援が必要な子どもたちが将来不登校や引きこもりにならないように重層的支援体制整備が望ましい。
- (5)ユニバーサルデザインを取り入れた環境整備が望ましい。
- (6)教師の自主研修を含むスキルアップに対する費用補助などの支援策があることが望ましい。